

『コリントの信徒のみなさんへ 第二』 私訳(Ⅱ)

阿 部 包

『コリントの信徒のみなさんへ 第二』私訳(Ⅰ)を本紀要に掲載したのは2013年のことであった。敢えて私事を書かせていただくと、その年から妻が自宅療養生活に入り、翌年10月半ばに緩和ケアのために入院、11月初めに帰天した。その後、所属教会の運営委員長(信徒代表)の仕事とわたし自身のセルフグリーフケアとが加わり、残念ながら残りの後半部の掲載には至らないまま、退職の日が迫って来た。そこで、不十分ながらも、一区切りつけておきたいと思い、今回の掲載となった。

なお、『コリントの信徒のみなさんへ 第二』私訳は、今回の8～13章で完了である。翻訳に際して心がけた原則は、従来の「私訳」のとおり、ギリシア語原文¹と対照しながら読んで分かりやすいこと、また、日本語としても自然に論理展開を追うことができること²、である。訳注も従来どおりページ毎の脚注形式で付す。

なお、ちょうど今回の部分に関する佐竹明による浩瀚な註解書が相次いで出版されたのは喜ばしい出来事であった。今後の改訳作業に活かしたいと願っている。

・佐竹明『第二コリント書 8-9 章』(現代新約註解全書)新教出版社、

¹ 底本は、NESTLE-ALAND, *NOVUM TESTAMENTUM GRAECE*, Ed. XXVIII, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 2012 である。

² ギリシア語原文の文章の流れや論理展開も重視し、可能な限り文章の順番どおり訳出するよう努めた。

2017 年。

・佐竹明『第二コリント書 10-13 章』（現代新約註解全書）新教出版社，2019 年。

この他、ハンス・ディーター・ベッツの次の註解書も必携である。

・Hans Dieter Betz, *2 Corinthians 8 and 9: Commentary on Two Administrative Letters of the Apostle Paul* (Hermeneia), Fortress Pr. 1985

他には当然ながら、田川建三 訳著『新約聖書 訳と註 3 パウロ書簡 その一』作品社，2007 年がやはり特に推奨に値する。

コリントの信徒のみなさんへ 第二³（承前）

自発的な施し

8 1 兄弟たちよ、マケドニアの諸教会⁴で与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせましょう。2 苦難という大いなる検証によって、彼らの満ち溢れる喜びとどん底の貧困とが満ち溢れ、その豊かな純真さをもたらしした⁵のです。3 彼らは力に応じて、いや、わたしは証言しますが、力以上に、自ら進んで、4 しきりに声をかけては⁶、その恵みに、つまり、

³ PROS KORINTHIOYS B'。直訳では「コリントの人々へ 二」。従来は、「コリント人への第二の手紙」（協会訳、フランシスコ会聖書研究所訳、青野訳）、「コリント人への手紙 第二」（新改訳）「コリントの信徒への手紙 二」（新共同訳）、など。ただし、元来、特に本文の前に表題が付けられる習慣がなかった事実から、田川のように2節冒頭の句を活かして「コリントにある神の教会へ 第二」とするのが順当かもしれない。

⁴ 使徒言行録によれば、パウロの第二回宣教旅行以降、少なくともフィリピ、テサロニケ、ベレアに教会が活動していた。16：11～17：15、参照。

⁵ 「…満ち溢れて、彼らの豊かな純真さをもたらしした」と訳したのは、ἐπερίσσευσεν εἰς τὸ πλοῦτος τῆς ἀπλότητος αὐτῶν。ἀπλότηςは、通常、説明的に「惜しまず施す純真さ、物を惜しまない純真さ」のように訳される。NRSV は、"generosity"。思い切って分かり易く訳せば、「…満ち溢れて、物を惜しまず施す純真さを彼らに豊かにもたらしした」といったところか。

⁶ 「しきりに声をかけては」と訳したのは、μετὰ πολλῆς παρακλήσεως。直訳は、「しきりに呼びかけながら」。直後に分詞 δεόμενοι「願った」があるので、「懇願しながら」ではなかろう。田川訳は終始一貫して、παρακαλέωを「呼び

聖なる者たちへの奉仕に共に与ることを⁷、わたしたちに願ったのです。5しかも、わたしたちが期待したのとは違って、神の御旨に基づいて、彼らは自分自身をまず主とわたしたちに献げました。6そこで、わたしたちはテトスに声をかけて、この恵みをあなたがたの間で始めたのだから、完成もするようにと勧めた⁸のです。

7むしろ、あなたがたはあらゆる点で、すなわち信仰でも、言葉でも、知識でも、あらゆる熱意でも、あなたがたの内にわたしたちの愛でも⁹満ち溢れているように¹⁰、この恵みの業でも満ち溢れる者となりなさい¹¹。8わたしがこう言うのは命令ではなく、むしろ他の者たちの熱意のゆえであり、また、あなたがたの愛が本物かどうかを検証しようと思つてのこと¹²です。9実際、あなたがたはわたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが主の貧しさによって富んだ者となるためです。10このことについて考えを述べましょう¹³。それ

かける」, παρακλήσις を「呼びかけること, 呼びかけ」のように訳している。「慰め」,「懇願」,「励まし」のように文脈によって訳し分けるより、この方が原文のニュアンスに近いかもしれない。

⁷ 「つまり、聖なる者たちへの奉仕に共に与ることを」と訳したのは、καὶ τὴν κοινωνίαν τῆς διακονίας τῆς εἰς τοὺς ἁγίους。καὶ の前には τὴν χάριν 「その恵み」があつて、この καὶ は「並列」ではなく、具体的な説明を導くもの。

⁸ 「そこで、わたしたちは…テトスに声をかけて…勧めた」と敢えて重複して訳したのは、εἰς τὸ παρακαλεῖσθαι ἡμᾶς τίτον, ἵνα…。εἰς は、より直訳的には、「その結果」。παρακαλεῖσθαι<παρακαλέω, 1 aor. 不定詞。

⁹ 「あなたがたの内にわたしたちの愛でも」と訳したのは、τῇ ἐξ ἡμῶν ἐν ὑμῖν ἀγάπῃ。直訳は、「あなたがたの内にわたしたちから出た愛でも」。なお、原文では、ἐν παντὶ παντὶ に合わせて、列挙されている名詞は「信仰」からこの「愛」まですべて与格形になっている。

¹⁰ この「満ち溢れている」は翻訳の便宜上、挿入したもの。

¹¹ 「この恵みの業でも満ち溢れるようになりなさい」と訳したのは、ἵνα καὶ ἐν ταύτῃ τῇ χάριτι περισσεύητε。接続詞 ἵνα は、ここでは命令法の代用の機能。περισσεύητεは ἵνα のために接続法。

¹² 「あなたがたの愛が本物かどうかを検証しようと思つてのこと」と訳したのは、τὸ τῆς ὑμετέρας ἀγάπης γνήσιον δοκιμάζων。

¹³ 「考えを述べましょう」と訳したのは、γνώμην…δίδωμι。1 コリント 7:25 にも出る表現。「考え」の別訳としては「意見」も可。

があなたがたの役に立つことだからです。あなたがたはただ実行するだけでなく、そうしたいと願うことも昨年からすでに始めていました¹⁴。11 だから今、その実行を完成しなさい。すなわち、そうしたいと願う熱意にふさわしく、持っている物によって完成もすることです¹⁵。12 実際、その熱意があれば、神に受け入れられるのは持っている物によるのであり、持っていない物によるものではありません¹⁶。13 それは、他の人々に樂をさせ、あなたがたに苦勞をさせようというのではなく、平等のためです。14 今という時に、あなたがたの余り分が彼らの不足のためになれば、彼らの余り分がいずれあなたがたの不足のためになり、こうして平等になるのです。次のように書かれているとおりです。「多く集めた者も余分に持つことはなく、少なく集めた者も足りなくなかった¹⁷」と。

テトスとその同行者（諸教会からの使者）

16 あなたがたに対してわたしが抱いているのと同じ熱意をテトスの心に与えてくださった神に感謝します。17 彼は、わたしたちの勧めを受

¹⁴ 「あなたがたは実行するだけでなく、そうしたいと願うことも昨年からすでに始めていました」と訳したのは、οἵτινες οὐ μόνον τὸ ποιῆσαι ἀλλὰ καὶ τὸ θέλειν προενήρξασθε ἀπὸ πέρυσι。より正確には、「実行するだけでなく」のところは、「実行することだけでなく」。つまり、προενήρξασθε「すでに始めていた」内容が二つの不定詞 τὸ ποιῆσαι と τὸ θέλειν だからである。関係代名詞 οἵτινες の先行詞は、直ぐ前の τοῦτο γὰρ ὑμῖν συμφέρει τοῦτο。

¹⁵ 「すなわち、そうしたいと願う熱意に見合う程度に、持っている物に応じて完成もすることです」と訳したのは、ὅπως καθάπερ ἡ προθυμία τοῦ θέλειν, οὕτως καὶ τὸ ἐπιτελεῖσαι ἐκ τοῦ ἔχειν。一応、ὅπως を「すなわち」と意識したが、「仕方、方法」を表す用法で、直前の τὸ ποιῆσαι ἐπιτελέσατε「その実行を完成しなさい」を具体的にどのようにするかを示す説明句を導くもの。

¹⁶ 「神に受け入れられるのは持っている者によるのであって、持っていない物によるではありません」と訳したのは、καθὸ ἐὰν ἔχη εὐπρόσδεκτος, οὐ καθὸ οὐκ ἔχει。直訳に近い。

¹⁷ 「多く集めた者も余分に持つことはなく、少なく集めた者も足りなくなかった」と訳したのは、ὁ τὸ πολὺ οὐκ ἐπλεόνασεν, καὶ ὁ τὸ ὀλίγον οὐκ ἡλαττόνησεν。LXX 出エジプト 16 : 18, οὐκ ἐπλεόνασεν ὁ τὸ πολὺ, καὶ ὁ τὸ ἔλαττον οὐκ ἡλαττόνησεν, 参照。前半は語順が入れ替わり、後半は ὁ τὸ ἔλαττον γὰρ τὸ ὀλίγον に替わっている。

け入れただけでなく、なお一層の熱意を持って、自ら進んであなたがたのところへ赴いたからです。18 わたしたちは、テトス¹⁸と一緒に一人の兄弟を送り出しました。福音におけるこの兄弟への賛辞は、全教会に広まっています¹⁹。19 そればかりでなく、彼は諸教会から選任されてわたしたちの同行者となり、主〔御自身〕の栄光とわたしたちの熱意を示すためにわたしたちが仕えているこの恵みの業を共にする²⁰ ことになりました²¹。20 わたしたちがこのように準備したのは²²、わたしたちが仕えている恵みのこの豊富さについて²³、だれもわたしたちの悪口を言わないようにするためです。21 実際、わたしたちは主の前だけでなく、人々の前でも善いことを²⁴ 心がけています。22 彼らと一緒に、わたしたちの兄弟をもう一人送り出しました。彼が熱心な人であることは多くの場面

¹⁸ 原文は単なる男性、単数の人称代名詞。

¹⁹ 「福音におけるこの兄弟への賛辞は、全教会に広まっています」と訳したのは、οὗ ὁ ἔπαινος ἐν τῷ εὐαγγελίῳ διὰ πασῶν τῶν ἐκκλησιῶν。冒頭の関係代名詞の属格の先行詞は、直前にある τὸν ἀδελφὸν。前置詞 διὰ をやや長いが「…に広まっています」と訳した。青野訳が「…に行き渡っている」。

²⁰ 「わたしたちが仕えているこの恵みの業を共にする」と訳したのは、σὺν τῇ χάριτι ταύτῃ τῇ διακονουμένῃ ὑφ' ἡμῶν。διακονουμένη ὑφ' ἡμῶν は、元来「わたしたちによって仕えられている（奉仕されている）」のように受動相だが、日本語表現の慣用に馴染まないので、能動相に替えている。

²¹ 「彼は諸教会から選任されてわたしたちの同行者となり」と訳したのは、καὶ χειροτονηθεὶς ὑπὸ τῶν ἐκκλησιῶν συνέκδημος ἡμῶν という原文どおり一続きの文章として訳した。συνέκδημος は、「同伴者」（新共同訳、青野訳）よりも「同行者」（フランシスコ会訳）の方がよからう。「旅行の一員」（田川訳）、「道連れ」（前田訳、塚本訳）。

²² 「わたしたちがこのように準備したのは」と訳したのは、στελλόμενοι τοῦτο。指示代名詞 τοῦτο は、先行する 19 節の内容。στελλόμενοι は、従来「…を避けようとしている」のように訳されてきた。Liddell & Scott も、われわれの箇所を上げて“avoid”としているが、本来の意味は飽くまでも「準備する、備える」である。田川、484 頁、当該注、参照。

²³ 「わたしたちが仕えている恵みのこの豊富さについて」と訳したのは、ἐν τῇ ἀδρότητι ταύτῃ τῇ διακονουμένῃ ὑφ' ἡμῶν。「恵みの」は意味を明瞭にするための翻訳上の補いだが、これについては、19 節の σὺν τῇ χάριτι ταύτῃ τῇ διακονουμένῃ ὑφ' ἡμῶν。διακονουμένη ὑφ' ἡμῶν 「わたしたちが仕えているこの恵みの業を携えて行く」を参照。

²⁴ 「善いことを」と訳したのは、καλὰ。形容詞、中性、複数対格。

でしばしばわたしたちがすでに検証した²⁵ ところです。今、彼はあなたがたに対する厚い信頼のゆえにますます熱心になっています²⁶。23 テトスについて言えば、彼はわたしの同志であり、あなたがたのために共に働く者²⁷ です。わたしたちの兄弟たちは、諸教会の使徒であり、キリストを映し出す者²⁸ です。24 だから、あなたがたの愛の証しとあなたがたに関するわたしたちの誇りの証しとを、諸教会の前で彼らに対して示しなさい。

エルサレムの信徒のための献金

9 1 聖なる者たちのための奉仕について、これ以上わたしがあなたがたに書く必要はありません²⁹。2 実際、わたしはあなたがたの熱意を知っているので、それを引き合いに出して³⁰、アカイアは昨年からすでに準備ができているのだと³¹ 言って、あなたがたのことをマケドニアの人々に誇りました。そして、あなたがたの熱心さは多くの人々を奮い立

²⁵ 「わたしたちがすでに検証した」と訳したのは、ἐδοκιμάσαμεν。δοκιμάζω, 1 aor. 1 人称複数。

²⁶ 「ますます熱心になっています」と訳したのは、πολύ σπουδαιότερον。

²⁷ 「共に働く者」と訳したのは、συνεργός。従来は、「協力者」(フランシスコ会訳)、「協力する者」(前田訳、新共同訳、聖書協会共同訳)、「同労者」(青野訳)、「共働者」(塚本訳) など様々。英訳は co-worker, ドイツ語訳は Mitarbeiter とほぼ直訳で事足りるが、日本語に移すのはそれほど単純ではない。

²⁸ 「キリストを映し出す者」と訳したのは、δόξα Χριστοῦ。「キリストの栄光」も可能。

²⁹ 「聖なる者たちのための奉仕について、これ以上わたしがあなたがたに書く必要はありません」と訳したのは、Περὶ μὲν γὰρ τῆς διακονίας τῆς εἰς τοὺς ἁγίους περισσὸν μοὶ ἐστὶν τὸ γράφειν ὑμῖν。「…わたしがあなたがたに書くことはこれで十分です」。

³⁰ 「それを引き合いに出して」と訳したのは、ἦν。関係代名詞、女性、単数対格。先行詞は直前にある τὴν προθυμίαν ὑμῶν 「あなたがたの熱意」。ニュアンスを伝えるために思い切って意訳した。

³¹ 「アカイアは昨年からすでに準備ができているのだと」と訳したのは、ὅτι Ἀχαΐα παρεσκευάσται ἀπὸ πέρυσι。παρεσκευάσται<παρεσκευάζω, 中動相, 現在完了, 3 人称単数。

たせた³²のです。3 わたしが兄弟たちを送り出したのは、あなたがたに
関するわたしたちの誇りがこの点で無駄にならないため、また、わたし
が言ったとおりに準備しておいてもらう³³ためです。4 さもないと、わ
たしと一緒にマケドニアの人々が到着して、あなたがたが準備できてい
ないのを見たら、当の現実によって³⁴恥をかかされるのはわたしたちな
のです³⁵。「あなたがたが」とは敢えて言いません³⁶。5 そこで、わたし
はこの兄弟たちに声をかけて、あなたがたのところに先に行つて、以前
あなたがたが約束した祝福を³⁷、前もって用意してもらうことが必要だ

³² 「奮い立たせた」と訳したのは、 $\eta\rho\epsilon\theta\iota\sigma\epsilon\nu < \epsilon\rho\epsilon\theta\iota\zeta\omega$ 「刺激する」。そこから、
多くは悪い意味で「怒らせる、激昂させる」。善い意味で使われる場合は「鼓
舞する、奮起させる、奮い立たせる」。1 aor. 3人称単数。

³³ 「準備しておいてもらう」と訳したのは、 $\pi\alpha\rho\epsilon\sigma\kappa\epsilon\nu\alpha\sigma\mu\acute{\epsilon}\nu\omicron\iota \eta\tau\epsilon$ 。2 節の
 $\Lambda\chi\alpha\acute{\iota}\alpha \pi\alpha\rho\epsilon\sigma\kappa\epsilon\acute{\nu}\alpha\sigma\tau\alpha\iota \alpha\pi\acute{o}\delta \pi\acute{\epsilon}\rho\upsilon\sigma\iota$ 「アカイアは昨年からすでに準備ができて
いるのだ」と同じ動詞が使われている点を訳文に現したいところ。その点、
現行の新共同訳は配慮に欠ける（2 節「準備ができています」、3 節「用意して
もらいたい」）。

³⁴ 「当の現実によって」と訳したのは、 $\acute{\epsilon}\nu \tau\eta \upsilon\pi\omicron\sigma\tau\acute{\alpha}\sigma\epsilon\iota \tau\alpha\acute{\upsilon}\tau\eta$ 。「あなたがた
が準備できていない」という現実と解した。田川、488～492 頁、当該注、参
照。なお、田川は、「ユダヤ人のギリシア語ではこの語が『事柄、現実』と
いった意味で用いられていたのは、七十人訳の諸用例からしてまず確かだ
ろう」としつつも、「『この事柄に関して』と訳す方が自然である」と結論し
ている（492 頁）。「この点について」（バルバロ訳）。

³⁵ 「恥をかかされるのはわたしたちなのです」と訳したのは、 $\kappa\alpha\tau\alpha\iota\sigma\chi\nu\nu\theta\acute{\omega}\mu\epsilon\nu \eta\mu\acute{\epsilon}\iota\varsigma$ 。 $\kappa\alpha\tau\alpha\iota\sigma\chi\nu\nu\theta\acute{\omega}\mu\epsilon\nu < \kappa\alpha\tau\alpha\iota\sigma\chi\acute{\upsilon}\nu\omega$ 、1 aor. 受動相、接続法、1 人称複数。

³⁶ 「『あなたがたが』とは敢えて言いません」と訳したのは、原文では、 $\acute{\epsilon}\nu \tau\eta \upsilon\pi\omicron\sigma\tau\acute{\alpha}\sigma\epsilon\iota \tau\alpha\acute{\upsilon}\tau\eta$ 「当の現実によって」の直前に位置する挿入句 $\iota\tilde{\nu}\alpha \mu\eta \lambda\acute{\epsilon}\gamma\omega \upsilon\mu\acute{\epsilon}\iota\varsigma$ 。この句の解釈についても、田川、492 頁、当該注、参照。従来訳の内誤訳は、「あなたがたはもちろんのこと」（フランシスコ会訳）、「あなたがたはもちろん」（新共同訳）、「あなたがたは言うに及ばず」（青野訳）。ただし、比較的古いものは「あなたたちがとはいわないにしても」（バルバロ訳）、「あなた方とはいいたくないが」（前田訳）のようにしっかり訳している。他に、「『あなた達が』とは言わないまでも」（塚本訳）、「あなたがたが恥をかくかどうかは敢えて言わぬことにする」（田川訳）。

³⁷ 「以前あなたがたが約束した祝福を」と訳したのは、 $\tau\eta\nu \pi\rho\omicron\epsilon\pi\eta\gamma\gamma\epsilon\lambda\mu\acute{\epsilon}\nu\eta\nu \epsilon\upsilon\lambda\omicron\gamma\iota\alpha\nu \upsilon\mu\acute{\omega}\nu$ 。これまで、8 章でパウロが $\chi\acute{\alpha}\rho\iota\varsigma$ 「恵みの業」を、いわゆる募金、献金を表す単語として使ってきたが、それをここでは「祝福」と言い換

と思った³⁸のです。食欲の表れではなく祝福として用意してもらうため³⁹です。

6つまり、こういうことです。惜しんで種蒔く者⁴⁰は、収穫するのも惜しんだ分で、祝福して豊かに⁴¹種蒔く者は、収穫するのも祝福されて豊かになります。7各自、いやいやながらも強いられてでもなく⁴²、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。実際、喜んで与える人を神は愛される⁴³のです。8神は、あなたがたの中にあらゆる恵みを豊かに満ち溢れさせることがおできになり、それで、あなたがたは、あらゆる点で、いつも、十分自足しながら、豊かに満ち溢れてあらゆる善い業をすることができるのです⁴⁴。それは、こう書かれているとおりで。

えている。従来は通常、「祝福の贈り物、祝福の賜物」のように訳されてきた。

³⁸ 「そこで、わたしはこの兄弟たちに声をかけることが必要だと思った」と訳したのは、ἀναγκαῖον οὖν ἡγησάμην παρακαλέσαι τοὺς ἀδελφοὺς。原文は長く続くので一旦ここで切り、コンマの後に続くἵνα以下の文章を、「それは、……ため、……ためです」として訳した。

³⁹ 「食欲の表れではなく祝福として用意してもらうため」と訳したのは、ταύτην ἐτοίμην εἶναι οὕτως ὥς εὐλογίαν καὶ μὴ ὥς πλεονεξίαν。ἵναの勢力範囲はここまでである。「食欲の表れ」は直訳に近い訳だが、12:16~18に記されている内容、参照。

⁴⁰ 「けちけちと種蒔く者」と訳したのは、ὁ σπείρων φειδομένως。もう一つの翻訳の可能性は、「ほんのわずかししか種を蒔かない者」。ただし、パウロが言いたいのは、「募金・献金の額をけちるな」ということなので、「けち、けちけち」を採用した。

⁴¹ 「祝福して豊かに」と訳したのは、ἐπ' εὐλογίας。原文では、直後に出る同じ句を、拙訳では、「祝福されて豊かに」と敢えて訳し分けた。ὁ σπείρων「種蒔く者」と θερίσει「収穫する」との違いである。

⁴² 「いやいやながらも強いられてでもなく」と訳したのは、μὴ ἐκ λύπης ἢ ἐξ ἀνάγκης。

⁴³ 「実際、喜んで与える人を神は愛される」と訳したのは、ἰλαρὸν γὰρ δότην ἀγαπᾷ ὁ θεός。LXX 箴言 22:8a, ἄνδρα ἰλαρὸν καὶ δότην εὐλογεῖ ὁ θεός、参照。省略可能な ἄνδρα を省き、καὶ に替えて γὰρ を、εὐλογεῖ に替えて ἀγαπᾷ を入れている。もともとは、「喜んで与える人を神は祝福される」。

⁴⁴ ここでパウロが言いたいのは、神が恵みを豊かに満ち溢れさせてくださる結果、あなたがたは自足できる分をはるかに超えて富を得ているのだから、それを善い業に投入せよ！神が余分に恵みを賜ったのは、その余分な富を善い業に使わせるために他ならないのだ、ということ。

「彼は撒き散らすが如く、貧しい人々に与えた。

彼の義は永遠に残る。」⁴⁵

10 種蒔く者に種を、また食べるためのパンを⁴⁶与えてくださる方は、あなたがたの種を与えてそれを増やし、あなたがたの義の果実を成長させてくださいます。11 あなたがたはあらゆる点で豊かな者となって、あらゆる純真さを示すようになり⁴⁷、その純真さがわたしたちをとおして働き神への感謝を生み出します⁴⁸。12 なぜなら、この奉仕の務め⁴⁹は、聖なる者たちの不足分を補うだけでなく、神への多くの感謝によって満ち溢れるものとなるからです。13 この奉仕が検証されることによって、彼らは、あなたがたがキリストの福音を告白するその従順さや、自分たちや他のすべての人々に対するあなたがたの交わりの純真さのゆえに神をほめたたえるでしょう。14 また、あなたがたに対するこの上なく豊かな神の恵みのゆえに、彼らがあなたがたを慕いながらあなたがたのために祈るその祈りによっても、神をほめたたえるでしょう⁵⁰。15 言葉では言

⁴⁵ 引用は、LXX 詩編 111 : 9, ἐσκόρπισεν, ἔδωκεν τοῖς πένησιν, ἡ δικαιοσύνη αὐτοῦ μένει εἰς τὸν αἰῶνα. πένησιν までが 9a, 9b には、元来 εἰς τὸν αἰῶνα の後に τοῦ αἰῶνος が続いている。

⁴⁶ 引用は、LXX イザヤ 55 : 10, ἐπιχορηγῶν σπόρον τῷ σπείροντι καὶ ἄρτον εἰς βρῶσιν. イザヤの該当箇所は、δῶ σπέρμα τῷ σπείροντι καὶ ἄρτον εἰς βρῶσιν となっている。つまり、パウロは動詞 δῶ を分詞 ἐπιχορηγῶν に替え、σπέρμα を同じ語源の σπόρον に替えたわけである。

⁴⁷ 「あなたがたはあらゆる点で豊かな者となって、あらゆる純真さを示すようになり」と訳したのは、ἐν παντί πλουτιζόμενοι εἰς πᾶσαν ἀπλότητα. εἰς πᾶσαν ἀπλότητα は意識せざるを得ない句。

⁴⁸ 「その純真さがわたしたちをとおして働き神への感謝を生み出します」と訳したのは、ἥτις κατεργάζεται δι' ἡμῶν εὐχαριστίαν τῷ θεῷ。

⁴⁹ 「この奉仕の務め」と訳したのは、ἡ διακονία τῆς λειτουργίας ταύτης。leitourgia には、「公の義務を遂行すること、その仕事」という意味がもともとである。パウロは、エルサレム教会への募金活動を教会全体にとって言わば国事に相当する公の務めと位置付けていたのだろう。

⁵⁰ 「また、あなたがたに対する神のこの上なく豊かな恵みのゆえに、彼らがあなたがたを慕いながらあなたがたのために祈るその祈りによっても、彼らは神をほめたたえるでしょう」と訳したのは、καὶ αὐτῶν δεήσει ὑπὲρ ὑμῶν ἐπιποθούντων ὑμᾶς διὰ τὴν ὑπερβάλλουσαν χάριν τοῦ θεοῦ ἐφ' ὑμῖν. 私見によれば、どの訳者も 13~14 節と続く長い文章のつながりを正確に訳すことを

い尽くせないその賜物のゆえに、神に感謝します。

パウロの誇り

10 1 さて、わたしパウロ自身が、キリストの穏やかさと公正さをもつて⁵¹ あなたがたに呼びかけます。あなたがたの間で顔を合わせていれば腰が低い⁵² のに、離れていると強気になる、というこのわたしが。2 わたしは、そちらに行っても強気にならずに済むように願っていますが、わたしたちを肉に従って歩んでいると見なしている者たちに対しては、勇敢に振舞おうと心に決めている⁵³ のです。3 わたしたちは、現に肉にあって歩んでいます、肉に従って戦っているわけではありません。4 わたしたちの戦いの武器は肉に属するものではなく、神による力であり、要塞を破壊することさえできるのです。わたしたちは諸々の議論を打ち破り、5 また神の知識に逆らうあらゆる高慢を打ち破って、あらゆる思い⁵⁴ を捕虜にしてキリストに服従させ、6 また、あなたがたの服従が十

放棄している。δεήσει という与格形は、13 節の ἐπὶ τῇ ὑποταγῇ…καὶ ἀπλότ-
ητι と並列して 13 節の主動詞的な機能を果たしている δοξάζοντες につな
がっている。男性分詞複数属格 ἐπιποθούντων は当然 δεήσει の前の αὐτῶν を
形容している。この関係を正確に訳そうとすると、若干くどくなるのを厭
わず、拙訳のようにせざるを得ないだろう。

⁵¹ 「キリストの穏やかさと公正さをもつて」と訳したのは、διὰ τῆς πραύτη-
τος καὶ ἐπεικειας τοῦ Χριστοῦ。従来、πραύτης と ἐπεικεία の対は、「柔和と慈
悲」(バルバロ訳)、「優しさと慈しみ」(フランシスコ会訳)、「柔和と親切」
(前田訳)、「優しさと心の広さ」(新共同訳)、「柔和さと寛容」(青野訳)、「お
だやかさ、まっとうさ」(田川訳)、「温和と寛容」(塚本訳) のように訳され
て来た。元来の語義に立ち返ると、田川訳の周辺に落ち着きそうに思うの
で、取り敢えず「穏やかさと公正さ」としておいた。

⁵² 「腰が低い」と訳したのは、ταπεινός。「低い」という語感を生かした。「弱
腰」(新共同訳)、「卑屈」(青野訳) はここでは少しづれるか。「弱気」と「強
気」の対比を生かしたフランシスコ会訳も捨てがたいが。

⁵³ 「勇敢に振舞おうと心に決めている」と訳したのは、τῇ πεποιθήσει ἢ λογί-
ζομαι τολμῆσαι。λογίζομαι は、少し前で「見なしている」と訳した単語と同じ
だが、ここは、不定詞 τολμῆσαι とともに使われている。πεποιθήσει と合わせ
て「と心に決めている」とした。

⁵⁴ 「思い」は、νόημα の訳。「考え」(バルバロ訳、前田訳)、「思い」(田川訳)、
「思惑」(フランシスコ会訳、新共同訳)、「[邪な] 思い」(青野訳)、「たくら

分に満ちたときには、すべての不服従を罰する用意ができています。

7 目の前の事柄をしっかり見なさい⁵⁵。もしもだれかが自分はキリストのものだと確信しているなら、その人は自分がキリストのものであるのと同じく、わたしたちもそうなのだということを、もう一度自分で考えてみるがよい。8 実際、あなたがたを破壊するためではなく、あなたがたを建てるために主がお与えになった⁵⁶ わたしたちの権威について、わたしがいささか誇りすぎたとしても、恥じることはないでしょう。9 わたしは手紙でああなたがたを脅していると思われたくはありません。10 なぜなら、「手紙は重々しく力強いが、生身の本人が来てみると⁵⁷ 弱々しいし、話もつまらない」と言う者たちがいるからです。11 そのような者は心得ておくがよい。離れていて手紙で語るわたしたちと、そちらに行きつて務めを果たすわたしたちは同じなのだ⁵⁸、と。

12 実際、わたしたちは、自己推薦するような者たちと自分たちとを敢えて同列に置いたり、比較したりしようとは思いません。それに対し

み」(塚本訳) など。

⁵⁵ 「目の前の事柄をしっかり見なさい」と訳したのは、Τὰ κατὰ πρόσωπον βλέπετε。βλέπετε は、2 人称複数現在形。直説法と命令法が同形だが、ここは命令法と解すべきところ。日本語訳では、「ありのままにことを見よ」(バルバロ訳)、「正面からものを見るがよい」(田川訳)、「目の前の事を見てもらいたい」(塚本訳)。直説法と解しているのは、「あなたがたは表面的なことしか見ていません」(フランシスコ会訳)、「あなた方はうわべだけをごらんです」(前田訳)、「あなたがたは、うわべのことだけ見えています」(新共同訳)、「あなたがたは上面〔だけ〕を見ている」(青野訳) など。命令法と解すべき根拠等、説得力ある説明については、田川、501～502 頁、当該注、参照。

⁵⁶ 「あなたがたを破壊するためではなく、あなたがたを建てるために主がお与えになった」と訳したのは、ἔδωκεν ὁ κύριος εἰς οἰκοδομὴν καὶ οὐκ εἰς καθάρσεις ὑμῶν。直前の関係代名詞とその先行詞にスムーズにつながるために、前後逆転した。「建てる」は通常「造り上げる」と意訳される。信徒集団である教会をパウロは建物に準えて「建てる」という建築用語を用いた。

⁵⁷ 「生身の本人が来てみると」と訳したのは、ἡ δὲ παρουσία τοῦ σώματος。

⁵⁸ 「離れていて手紙で語るわたしたちと、そちらに行きつて実際に務めを果たすわたしたちは同じなのだ」と訳したのは、οἳ οἱ ἐσμεν τῷ λόγῳ δι' ἐπιστολῶν ἀπόντες, τοιοῦτοι καὶ παρόντες τῷ ἔργῳ。より直訳的には、「離れているときの手紙の言葉に現れたわたしたちと、そちらに行ったときの任務の遂行に現れたわたしたちとは同じなのだ」。

て⁵⁹、彼らは自分たちの間で互いに評価し合ったり、比較し合ったりして⁶⁰いますが、分別のないことです。13 わたしたちは限度なく誇りはしません⁶¹。わたしたちはむしろ、あなたがたのところまで達するという⁶²、神がわたしたちに割り当ててくださった規準の限度を守って⁶³誇るのです。14 実際、わたしたちは、あなたがたのところまで達していないのに⁶⁴、無理矢理手を伸ばしているわけではありません。現に、わたしたちはあなたがたのところまで、キリストの福音を携えてすでに訪れました。15 わたしたちは、他の人々の労苦を限度なく誇りはしません。ただし、希望は持っています。それは、あなたがたの信仰があなたがたの間で成長し、キリストの福音がわたしたちの規準に従って、満ち溢れるばかりに拡大していく⁶⁵こと、16 つまり、あなたがたのはるか彼方の

⁵⁹ 「それに対して」と訳したのは、不変化詞 ἄλλα。

⁶⁰ 「互いに比較し合ったりして」と訳したのは、συγκρίνοντες ἑαυτοὺς ἑαυτοῖς。

⁶¹ 「わたしたちは限度なく誇りはしません」と訳したのは、ἡμεῖς δὲ οὐκ εἰς τὰ ἄμετρα καυχησόμεθα。

⁶² 「あなたがたのところまで達するという」と訳したのは、ἐφικέσθαι ἄχρι καὶ ὑμῶν。「…限度を守って」の具体例として記されている。不定詞 ἐφικέσθαι は καυχησόμεθα「わたしたちは誇る」の内容を示すもの。ἐφικέσθαι < ἐφικνέομαι, 2 aor. 不定詞。

⁶³ 「規準の限度を守って」と訳したのは、κατὰ τὸ μέτρον τοῦ κανόνος。κανὼν は、もとは「真っ直ぐな棒」を意味した。そこから「物差、定規」を経て「規準、規範、原理・原則」、さらに「物差で測って決められた区域、領域、一定の範囲」をも意味するようになった、と説明されるのが通例。われわれの箇所が発言が、神から割り当てられたパウロの宣教活動の領域だけを指しているのか、それとももっと広い内容をも示唆するものなのかは、判断の難しいところ。

⁶⁴ 「実際、わたしたちは、あなたがたのところまで達していないのに」と訳したのは、οὐ γὰρ ὡς μὴ ἐφικνούμενοι εἰς ὑμᾶς。「わたしたちは」は続く ὑπερεκτείνομεν ἑαυτοὺς の主語の先取り。

⁶⁵ 「キリストの福音が、わたしたちの規準に従って、満ち溢れるばかりに拡大していくこと」と訳したのは、μεγαλυνθῆναι κατὰ τὸν κανόνα ἡμῶν εἰς περισσείαν。μεγαλυνθῆναι「拡大していくこと」の主語を 14 節に出ている「キリストの福音」と解した。従来は、本文にない「わたしたちの働き」を補って訳されるのが一般的。しかし、パウロは、異邦人伝道拡大への意欲を披歴する場合でも、まずは屈折した言い方をする傾向があるので、拙訳のように、

地域にまで福音が伝えられること⁶⁶，他人の規準においてすでに成し遂げられたことを誇るがよいこと⁶⁷。17「誇る者は主を誇るがよい」⁶⁷。18 実際，自己推薦する者ではなく，主が推薦してくださる者こそ適格者なのです。

偽使徒たち

11 1 わたしの少しばかりの浅はかさを，あなたがたが我慢してくれたらよいのだが⁶⁸。いや，むしろ我慢してほしい⁶⁹。実際，わたしは神の嫉妬心で⁷⁰ あなたがたに嫉妬しているのです。というのは，わたしはあなたがたを純潔な処女として一人の夫と婚約させた，つまりキリストに献げたからです。3 しかし，わたしは恐れています。蛇がエバをそのずる賢さで誘惑したように，あなたがたの思いが惑わされて，キリストに対する純真さ〔と純潔〕から離れてしまうのではないか⁷¹，と。4 あなたがたは，やって来た者がわたしたちが宣べ伝えたのとは違うイエスを宣べ伝えても，あるいは，かつて受けたことがない別の霊や，受け入れたこ

本文の，しかもすぐ前の節に出た「キリストの福音」を補って訳するのが自然ではなからうか。直接的な言い方は続く16節に出る。なお，「基準」は15，16節にも出るが，「領域，範囲」がよい。

⁶⁶ 「福音が伝えられること」と訳したのは，εὐαγγελίσασθαι。

⁶⁷ 「誇る者は主を誇れ」と訳したのは，Ὁ δὲ καυχώμενος ἐν κυρίῳ καυχάσθω。LXX エレミヤ9：23，ἐν τούτῳ καυχάσθω ὁ καυχώμενος…ὅτι ἐγὼ εἰμι κύριος…。「誇る者は，このことを誇るがよい。…わたしこそ主。…」。1コリント5：11，参照。他に，ローマ5：11，ガラテヤ6：14，フィリピ3：3も参照。

⁶⁸ 「わたしの少しばかりの浅はかさを，あなたがたが我慢してくれたらよいのだが」と訳したのは，Ὁφελον ἀνείχεσθέ μου μικρόν τι ἀφροσύνης. ἀφροσύνηςの訳語は，「愚かさ」も可。

⁶⁹ 「いや，むしろ我慢してほしい」と訳したのは，ἀλλὰ καὶ ἀνέχεσθέ μου。

⁷⁰ 「神の嫉妬心で」と訳したのは，θεοῦ ζήλῳ。直訳は，「神の嫉妬をもって，神の嫉妬でもって」。

⁷¹ 「あなたがたの思いが惑わされて，キリストの純真さ〔と純潔〕から離れてしまうのではないか」と訳したのは，μή πως…φθαρῇ τὰ νοήματα ὑμῶν ἀπὸ τῆς ἀπλότητος [καὶ τῆς ἀγνότητος] τῆς εἰς τὸν Χριστόν. φθαρῇ<φθειρῶ，2 aor. 受動相，接続法，3人称単数。

とがない別の福音を受けても、よく我慢しているからです。

5 わたしはあのだ偉い使徒たちと比べて⁷² 何一つ劣っていないと思っています。6 たとえ、話すのは素人でも、知識は違います。わたしたちは、このことを万事につけあらゆる点であなたがたに明らかにしてきました⁷³。

7 それとも、あなたがたを高めるために⁷⁴ わが身を低くして、無報酬で神の福音をあなたがたに告げ知らせたことで、わたしは罪を犯したことになるのでしょうか。8 わたしは、他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための俸給を手に入れました。9 あなたがたのところにおいてわたしが生活に困ったときも、だれのやっかいにもなりませんでした⁷⁵。実際、わたしの困窮を満たしてくれたのはマケドニアからやって来た兄弟たちでした。万事につけて、わたしはあなたがたの重荷にならないようにして来ましたし、これからもそうするつもりでいます。10 わたしの内にあるキリストの真理は次のとおりです。この誇りがアカイア地方で私に対して封じられることは決してありません⁷⁶。11 なぜでしょうか。わたしがあなたがたを愛していないからでしょうか。それは、神

⁷² 「あのだ偉い使徒たちと比べて」と訳したのは、τῶν ὑπερλίαν ἀποστόλων で、パウロお得意の皮肉。ὑπερλίαν は、ὑπέρ「越えて、超えて」+ λίαν「非常に、全く、ひどく」。皮肉で言っているとすぐ分かる訳語にしなければならないので、「あの物凄い使徒たち、あの超お偉い使徒たち、あのだ偉い使徒たち」の中から、取り敢えず選んだ次第。

⁷³ 「わたしたちは、このことを万事につけあらゆる点であなたがたに明らかにしてきました」と訳したのは、ἐν παντί φανερώσαντες ἐν πᾶσιν εἰς ὑμᾶς。

⁷⁴ 「あなたがたを高めるために」と訳したのは、ἵνα ὑμεῖς ὑψωθῇτε。直訳は、「あなたがたが高められるために、あなたがたが高められるように」。日本語表現らしく、受動を能動に替えた。

⁷⁵ 「だれのやっかいにもなりませんでした」と訳したのは、οὐ κατενάρκησα οὐθενός。κατενάρκησα<καταναρκάω「やっかいになる、面倒をかける」、1 aor. 1 人称単数。

⁷⁶ 「わたしの内にあるキリストの真理は次のとおりです。この誇りがアカイア地方で私に対して封じられることは決してありません」と訳したのは、ἔστιν ἀλήθεια Χριστοῦ ἐν ἐμοὶ ὅτι ἡ καύχησις αὕτη οὐ φραγῆσεται εἰς ἐμὲ ἐν τοῖς κλίμασιν τῆς Ἀχαΐας。ὅτι以下の内容が真実であることを、キリストの真理にかけてパウロは請け合っている。

がご存知です。

12 わたしは現在していることを今後も続けます⁷⁷。それは、わたしたちと同じように誇ることを認めてもらう機会を狙っている者たちの機会を断ち切るためです⁷⁸。13 実際、こういう者たちは偽使徒、人を騙す活動家⁷⁹で、キリストの使徒に成り済ましている⁸⁰のです。14 しかし、驚くには当たりません。実際、サタンでさえ光の天使に成り済ますのです。15 だから、サタンに仕える者が義に仕える者であるかのように成り済ましても、大したことではありません。彼らの最期は、その仕業にふさわしいものとなるでしょう。

使徒としてのパウロの苦難（使徒としてのパウロの労苦）

16 もう一度言います。だれもわたしを浅はかな者と思ってはなりません⁸¹。しかし、もしそれができないなら、わたしを浅はかな者と思うがよい。そうすれば、わたしも少しは誇ることができるでしょう。17 わたしがこれから話すことは、主に従って⁸²話すのではなく、むしろ、浅はかな者になって、このように現実に誇りながら⁸³話すのです。18 多く

⁷⁷ 「わたしは現在していることを今後も続けます」と訳したのは、Ὁ δὲ ποιῶ, καὶ ποιῶσω。動詞は、時制が単に現在と未来の違いだけだが、そのニュアンスを訳文に明瞭に表すために、「現在」、「今後」の対比を導入した。

⁷⁸ 「それは、わたしたちと同じように誇ることを認めてもらう」と訳したのは、ἵνα ἐν ᾧ καυχῶνται εὐρεθῶσιν καθὼς καὶ ἡμεῖς。解釈が困難な個所の一つ。

⁷⁹ 「人を騙す活動家」と訳したのは、ἐργάται δόλιοι。「腹黒い働き手」(フランシスコ会訳)、「まやかしの働き人」(前田訳)、「ずる賢い働き手」(新共同訳)、「狡猾な働き人たち」(青野訳)、「人を騙す働き人」(田川訳)、「悪賢い働き手」。因みにバルバロ訳は「詐欺的な汚職の徒」。

⁸⁰ 「キリストの使徒に成り済ましている」と訳したのは、μετασχηματιζόμενοι εἰς ἀποστόλους Χριστοῦ。μετασχηματίζω「姿を変える、変装する、偽装する」。別訳としては、「…偽装している、変装している」。

⁸¹ 「だれもわたしを浅はかな者と思ってはならない」と訳したのは、μὴ τίς με δόξη ἄφρονα εἶναι。訳語について、「浅はかな者」は「愚かな者」も可。

⁸² 「主に従って」と訳したのは、κατὰ κύριον。「主によって、主の御旨に従って、主の御旨に基づいて」なども可。

⁸³ 「むしろ、浅はかな者になって、このように現実に誇りながら」と訳したのは、ὥς ἐν ἀφροσύνῃ, ἐν ταύτῃ τῇ ὑποστάσει τῆς καυχήσεως。ここも翻訳が

の者が肉に従って誇っているのです、わたしも誇ろう。19 賢いあなたがたのことだから、喜んで浅はかな者たちを我慢してくれるでしょう。20 実際、だれかがあなたがたを奴隷にしても、食べ物にしても、奪い取っても、威張り散らしても、顔を殴っても⁸⁴、あなたがたはそれを我慢しています。21 恥を覚悟で言いますが、わたしたちが弱かったのです⁸⁵。

だれかが敢えて誇ろうとするのであれば⁸⁶、浅はかになって⁸⁷言いますが、わたしも敢えて誇ろう。22 彼らはヘブライ人か、わたしもそうだ。彼らはイスラエル人か、わたしもそうだ。彼らはアブラハムの子孫か、わたしもそうだ。23 彼らはキリストに仕える者か、狂ったように言うが、わたしは彼ら以上にそうだ。苦勞したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことははるかに多く、死にかけたことも度々でした。24 ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭打ち⁸⁸を受けたことが五回、25 ローマ式の鞭打ちを受けたことが三回⁸⁹、石で打たれた

かなり難しい箇所の一つ。拙訳は、ἐν に導かれる 2 つの前置詞句を並列して ὡς にかかるものと解した。9:4 に、ἐν τῇ ὑποστάσει ταύτῃ（ここでは「当の現実によって」と訳した）が出ており、われわれの箇所の表現と類似している。ただし、むしろ日本語表現としては、別訳：「浅はかになった者、このように現実に誇っている者として」と訳してもよいかもしれない。

⁸⁴ 実際には、「食べ物にしても、奪い取っても、威張り散らしても」までには、εἰ τις 「もしもだれかが」が付いているし、「顔を殴っても」は εἰ τις εἰς πρόσωπον ὑμῶς 「もしもだれかがあなたがたの顔を」となっていて、これら全部をそのまま日本語に移すと、煩雑な表現になってしまうので、適宜省略した。

⁸⁵ 「恥を覚悟で言うが、わたしたちが弱かったのです」と訳したのは、κατὰ ἀτιμίαν λέγω, ὡς ὅτι ἡμεῖς ἡσθενήκαμεν。ὡς ὅτι は、単なる ὅτι と同じ。

⁸⁶ 「だれかが敢えて誇ろうとするのであれば」と訳したのは、'Εν ᾧ δ' ἄν τις τολμᾷ。文脈から、不定詞 καυχᾶσθαι が省略されているものと解した。

⁸⁷ 「浅はかになって」と訳したのは、ἐν ἀφροσύνῃ。

⁸⁸ 申命記 25:3, 「²もし有罪の者が鞭打ちの刑に定められる場合、裁判人は彼をうつ伏せにし、自分の前で罪状に応じた数だけ打たせねばならない。

³四十回までは打つてもよいが、それ以上はいけな。それ以上打たれて、同胞があなたの前で卑しめられないためである」。打ち過ぎを防ぐために、許されている回数より一回少なく打つのが慣例だったと言われている。

⁸⁹ 「ローマ式の鞭打ちを受けたことが三回」と訳したのは、τρίς ἐρραβδίσθην。ἐρραβδίσθην<ράβδιζω「杖で打つ、棒で打つ、鞭で打つ」<ράβδος「杖、鞭」。

ことが一回、難船した⁹⁰ことが三回、一昼夜海上で過ごしたこともあり
ました。26 幾度も旅をして、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人
からの難、都市での難、荒れ野での難、海での難、偽兄弟たちによる難
に遭い、27 労苦と骨折りを重ね、しばしば夜も眠らず、飢え渴き、しば
しば食事せず、寒さに凍え裸でいることもありました。28 この他にも
まだありますが、その上に、日々わたしに殺到する厄介事、あらゆる教
会についての心配事があります。29 だれかが弱っているのに、わたしが
弱らずにいられるでしょうか。だれかが躓いているのに、このわたしが
心を⁹¹ 焼かれずにいられるでしょうか。

30 もし誇る必要があるのなら、わたしの弱さに関わる事を誇ろう。主
イエスの父である神、永遠に褒むべき方⁹²は、わたしが嘘をついていな
いことをご存知です。32 ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕えよ
うとしてダマスコの人々の町を見張っていたことがありましたが、33 わ
たしは窓から城壁に沿って籠で吊り下ろされて、彼の手を逃れたのでし
た。

幻と啓示（主から示された事）

12 1 わたしは誇らずにはられません。誇っても役には立ちません
が⁹³、主の幻と啓示について語りましょう⁹⁴。2 わたしはキリストにある

この動詞は、通常、ローマの鞭打ち刑 *verberatio* を指すとされるので、敢え
て説明的に訳した。「ローマ兵から鞭打ちを受けたことが三回」。

⁹⁰ 「難船した」と訳したのは、ἐναυάγησα<ναυαγέω<ναῦς「船」+ἄγνυμι「壊す、砕く、破損する」。別訳としては、「船が難破した」。

⁹¹ 「心を」は翻訳上の補い。

⁹² 「主イエスの父である神、永遠に褒むべき方」と訳したのは、ὁ θεὸς καὶ πατὴρ τοῦ κυρίου Ἰησοῦ…, ὁ ὢν εὐλογητὸς εἰς τοὺς αἰῶνας. なお、…には οἶδε v「ご存知です」がある。1:3 に ὁ θεὸς καὶ πατὴρ τοῦ κυρίου ἡμῶν Ἰησοῦ Χριστοῦ という類似表現が出ていた。

⁹³ 「わたしは誇らずにはられません。誇っても役には立ちませんが」と訳したのは、Καυχᾶσθαι δεῖ, οὐ συμφέρον μέν. 厳密に言えば、直訳は「誇らずにられません。役には立ちませんが」。

⁹⁴ 「主の幻と啓示について語ることにしましょう」と訳したのは、ἐλεύσομαι δὲ εἰς ὄπτασις καὶ ἀποκαλύψεις κυρίου. ὄπτασία<ὀπτάνομαι。「現れること、顕現、幻、幻視」。

一人の人を知っています。その人は十四年前、体のままか、体の外に出
てか、わたしは知りません。それは神がご存知です。彼は第三の天にま
で連れ去られたのです。3 また、わたしはそのような人を知っています。
体のままか、体を離れてか、わたしは知りません。それは神がご存知で
す。4 その人は楽園まで連れ去られ、人間には語ることが許されない、
言い表しえない言葉を聞いたのです。5 このような人についてなら、わ
たしは誇りましょう。しかし、わたし自身については、弱さ以外誇るつ
もりはありません。6 実際、わたしが誇りたくなっても、真実を
語るのですから、浅はかな者にはならないでしょう。しかし、それは止
めておこう。だれかがわたしを見たり、わたしから〔何かを〕聞いたり
すること以上に、わたしを高く評価してはいけなから。7 また、あの
諸々の啓示の卓越した豊かさのために、そのために⁹⁵、わたしが思い上
がらないように、わたしの体に一つのとげが与えられたのです。それは
サタンの使いで、わたしを打ちのめすため、わたしが思い上がらないよ
うにするためのものです。8 この使いについて、わたしは三度主に、わ
たしから離れ去らせてくださるように、願いました。9 すると、主はわ
たしに言われました。「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さ
の中でこそ完全に発揮されるのだ」と。だから、キリストの力がわたし
に宿るように、わたしはむしろ大いに喜んでわたしの弱さを誇るのです。
10 それで、わたしは弱さも、侮辱も、困窮も、迫害も、行き詰まりも、

⁹⁵ 「また、あの諸々の啓示の卓越した豊かさのために、そのために」と訳し
たのは、*καὶ τῇ ὑπερβολῇ τῶν ἀποκαλύψεων*。διὸ。ネストレ版では、このよ
うに、6 節の末尾にピリオドがなく、7 節の *ἀποκαλύψεων* と *διὸ* との間にピリ
オドが打たれている。ただし、*τῇ ὑπερβολῇ τῶν ἀποκαλύψεων* を 6 節からつ
ながるように読むとすると、この与格は *ὑπὲρ ὁ…ἐμοῦ* と並列しているもの
として読むことになろう。その場合には、「だれかが現にわたしを見たり、
あるいはわたしから〔何かを〕聞いたりすること以上に高く、また、あの諸々
の啓示の卓越した豊かさによって、わたしを高く評価してはいけなから」
という風に訳すことになる。やはり、「また、あの諸々の啓示の卓越した豊
かさのために、そのために」だけが文脈から浮いてしまうように感じられよ
う。内容的には、むしろ、6 節末尾の *ἐμοῦ* でピリオドを打ち、*καὶ τῇ ὑπερβο
λῇ τῶν ἀποκαλύψεων*、*διὸ* (*διὸ* の前のピリオドをコンマに替える) と続ける
のが自然であろう。詳しくは、田川、527～529 頁、当該注、参照。

キリストのために喜んでいます。わたしは弱いときにこそ強いからです。

コリントの教会に対するパウロの危惧（コリントの教会に対するパウロの心遣い）

11 わたしは浅はかな者になってしまいました。あなたがたが無理矢理そうさせたのです。実際、わたしがあなたがたから推薦されるべきだったのです。たとえわたしが無に等しい者だとしても、あのど偉い使徒たちと比べて何一つ劣ってはいませんでした。12 使徒であることの徴は、あなたがたの間で、あらゆる根気強さによって、徴と奇跡と力ある業をもって⁹⁶行なわれました。13 あなたがたが他の諸教会より劣っているのは一体何でしょうか、わたし自身があなたがたのやっかいにならなかったことを除けば⁹⁷。わたしのこの不義をあなたがたに赦してもらいたい⁹⁸。

14 これで三度目になりますが、今わたしはあなたがたのところに行く準備をしています。今度もあなたがたのやっかいにはなりません⁹⁹。わたしが求めているのはあなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身からです。子どもは親のために財産を蓄える必要はなく、親が子どものために蓄えなければならないのです。15 わたしは大いに喜んで持ち物を使おう、いや、あなたがたの命のためなら、わが身を使い果たしもしましょう¹⁰⁰。わたしがあなたがたを愛すれば愛するほど、ますますわた

⁹⁶ 「あらゆる根気強さによって、徴と奇跡と力ある業をもって」と訳したのは、ἐν πάσῃ ὑπομονῇ, σημείους τε καὶ τέραςιν καὶ δυνάμεσιν。

⁹⁷ 「わたし自身があなたがたのやっかいにならなかったことを除けば」と訳したのは、εἰ μὴ ὅτι αὐτὸς ἐγὼ οὐ κατενάρκησα ὑμῶν。原文では、ここまでが疑問文の範囲。別訳の可能性は、「…ことだけでしょう。」

⁹⁸ 「わたしのこの不義をあなたがたに赦してもらいたい」と訳したのは、χαρίσασθέ μοι τὴν ἀδικίαν ταύτην。χαρίσασθέ<χαρίζομαι, 1 aor. 命令法, 2 人称複数。

⁹⁹ 「今度もあなたがたのやっかいにはなりません」と訳したのは、καὶ οὐ καταναρκήσω。

¹⁰⁰ 「わたしは大いに喜んで持ち物を使おう、いや、あなたがたの命のためなら、わが身を使い果たしもしましょう」と訳したのは、ἐγὼ δὲ ἥδιστα δαπαν-

しは愛されなくなるのでしょうか。16 それはよいとして¹⁰¹、わたしはあなたがたに負担をかけなかったのに、ずる賢くあなたがたから騙し取ったことになっています¹⁰²。17 あなたがたのところに派遣しただれを使って、わたしがあなたがたから暴利を貪った¹⁰³ ことがあるのでしょうか。18 わたしはテトスに頼んで、あの兄弟も一緒に派遣しましたが、そのテトスが暴利を貪ったというのでしょうか。わたしたち¹⁰⁴ は同じ霊によって歩み、同じ足跡を辿ったではありませんか¹⁰⁵。

19 以前からあなたがたは、わたしたちがあなたがたに対して自己弁明していると思ってきました。しかし¹⁰⁶、神の前で、キリストにあって、わたしたちは語っているのです。愛する者たちよ、すべてはあなたがたを建てるため¹⁰⁷ なのです。20 実際、わたしは危惧しています。そちらに行ったとき、あなたがたがわたしの期待していた人たちではなく、わたしの方も、あなたがたの期待どおりの人ではなかったらどうしよう、

ήσω καὶ ἐκδαπανηθήσομαι ὑπὲρ τῶν ψυχῶν ὑμῶν。2つの動詞がδαπανάωとそれに接頭辞ἐκが付いただけのἐκδαπανάωであることを訳文に表したかったので、前者を「持ち物を使う」、後者を「わが身を使い果たす」とした。なお、文末にある句ὑπὲρ τῶν ψυχῶν ὑμῶν「あなたがたの命のためなら」をἐγὼ δὲ ἥδιστα δαπανήσω にもかけて読む翻訳者も少なくない。

¹⁰¹ 「しかし、それはよいとして」と訳したのは、Ἔστω δέ。

¹⁰² 「わたしはあなたがたに負担をかけなかったのに、ずる賢くあなたがたから騙し取ったことになっています」と訳したのは、ἐγὼ οὐ κατεβάρησα ὑμᾶς· ἀλλὰ ὑπάρχων πανοῦργος δόλω ὑμᾶς ἔλαβον。

¹⁰³ 「あなたがたからわたしが暴利を貪った」と訳したのは、ἐπλεονέκτησα ὑμᾶς。7:2にοὐδένα ἐπλεονεκτήσαμεν「(わたしたちは) だれからも暴利を貪ったことはありません」という表現が出る。πλεονεκτέω「欺く、騙す、騙して不当に儲ける、貪り取る」。πλεονέκτης「貪欲な者、欲深い者、詐欺師」、πλεονεκσία「貪欲さ、欲深さ」と同根語。

¹⁰⁴ 「わたしたち」は、当然、テトスを含めた「わたしたち」。

¹⁰⁵ 「同じ足跡を辿ったではありませんか」と訳したのは、οὐ τοῖς αὐτοῖς ἵχνεσιν。もちろん、直前にある動詞 περιπατήσαμεν が省略されているが、翻訳文でも省略したままで意味が通るように、意訳した。

¹⁰⁶ 明らかに逆説だが、原文にはδὲも何もない。翻訳上の補い。

¹⁰⁷ 「あなたがたを建てるため」と訳したのは、ὑπὲρ τῆς ὑμῶν οἰκοδομῆς。「あなたがたを造り上げるため」(新共同訳)、「あなたがたが信仰者として造り上げられるため」(フランシスコ会訳)。

と。争い、妬み、憤怒¹⁰⁸、利己心、悪口、陰口¹⁰⁹、驕り¹¹⁰、不穏な動き¹¹¹はないだろうか、と。21 再びそちらに行ったとき、わたしの神があなたがたの前でわたしを貶めるようなことはなさらないだろうか、また、以前罪を犯しておきながら、自分が犯した汚れ、不品行、放蕩を悔い改めなかった多くの者たちのことを、わたしが嘆き悲しむことにならないだろうか、と。

結びの言葉

13 1 わたしがあなたがたのところに行くのはこれで三度目になります。すべての事柄は、二人ないし三人の証人の口によって確定されます¹¹²。2 わたしがかつて以前罪を犯した者たちとその他のすべての人々

¹⁰⁸ 「憤怒」と訳したのは、θυμοί<θυμός、複数形。「激怒、憤り」。ガラテヤ 5:20 に、われわれの箇所と同じ順番で ἔρις, ζήλος, θυμοί, ἐριθείαι が悪徳表の一部として出ている。

¹⁰⁹ 「陰口」と訳したのは、ψιθυρισμοί「囁き」<ψιθυρίζω「囁く」。「ひそひそ話」も可。

¹¹⁰ 「驕り」と訳したのは、φυσιώσεις「膨れ上がること、驕り高ぶり、慢心」。

¹¹¹ 「不穏な動き」と訳したのは、ἀκαταστασία。「騒動」(フランシスコ会訳、新共同訳)、「騒ぎ」(バルバロ訳、前田訳)、「不穏」(田川訳)、「騒乱」(青野訳)、「無秩序」(塚本訳)。

¹¹² 「すべての事柄は、二人ないし三人の証人の口によって確定される」と訳したのは、ἐπὶ στόματος δύο μαρτύρων καὶ τριῶν σταθήσεται πᾶν ῥῆμα。LXX 申命記 19:15, ἐπὶ στόματος δύο μαρτύρων καὶ ἐπὶ στόματος τριῶν μαρτύρων σταθήσεται πᾶν ῥῆμα。「すべての事柄は、二人の証人の口ないし三人の証人の口によって確定される」。「確定される」と訳した σταθήσεται は未来形だが、ヘブライ語の未完了形をギリシア語に移したもので、従来は「確定されるべきである、確定されなければならない」のように訳す場合が少なからずあった。ちなみに、マソラ・テキストに基づく新共同訳の当該箇所は、「(いかなる犯罪であれ) …二人ないし三人の証人の証言によって、その事は立証されなければならない

に対して、二度目にそちらに居たときに前もって言ったように、離れている今も前もって言います。そちらに行ったら今度は容赦しません¹¹³。3なぜなら、あなたがたはキリストがわたしの内にあって語っておられる証拠を求めているからです。キリストはあなたがたに対して弱い方ではなく、あなたがたの内にあって強い方です。4キリストは弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力によって生きておられるからです。実際、わたしたちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対してはキリストと共に神によって生きるのです¹¹⁴。

5あなたがたは、信仰の内にあるかどうか、自分を試し、自分を検証しなさい¹¹⁵。それとも、あなたがたは自分自身のことが分からないのですか。イエス・キリストがあなたがたの内におられる¹¹⁶のです。ただし、あなたがたが失格者だとすれば別ですが。6わたしたちが失格者でないことをあなたがたが知ってくれるよう、わたしは願っています。7

ない」と訳されている。マタイ 18:16b にも LXX の当該箇所が次のような形で引用されている。*ἐπὶ στόματος δύο μαρτύρων ἢ τριῶν* σταθῇ *πάν ῥήμα*。

¹¹³ 「そちらに行ったら今度は容赦しません」と訳したのは、*ὅτι ἐὰν ἔλθω εἰς τὸ πάλιν οὐ φείσομαι*。

¹¹⁴ 「実際、わたしたちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対してはキリストと共に神によって生きるのです」と訳したのは、*καὶ γὰρ ἡμεῖς ἀσθενούμεν ἐν αὐτῷ, ἀλλὰ ζήσομεν σὺν αὐτῷ ἐκ δυνάμεως θεοῦ εἰς ὅμᾱς*。イタリックにした句について、写本上の異読がある。*ἐν αὐτῷ*と*σὺν αὐτῷ*については、いずれも両方の前置詞をどちらかに揃えたもの。この措置は後の手によるものと判断されるべきである。*ζήσομεν*に*ζησόμεθα*という異読がある。ただし、どちらも未来、1人称複数で意味は同じ。拙訳は、ネストレの本文に従っている。パウロが言わんとしているのは、わたしたちもキリストにあって弱いけれども、あなたがたのところに行ったときには、神によってキリストと共に生きつつ宣教に励むだろう、ということ。田川、541～542頁、当該注、参照。

¹¹⁵ パウロのキーワードの一つ。別訳「吟味しなさい」（新共同訳、聖書協会共同訳）。「吟味検証しなさい」、「確かめなさい」。

¹¹⁶ 「イエス・キリストがあなたがたの内におられる」と訳したのは、*Ἰησοῦς Χριστὸς ἐν ὑμῖν*。ちなみ、ローマ 8:10 に、*εἰ δὲ Χριστὸς ἐν ὑμῖν* 「もしキリストがあなたがたの内におられるとすれば」という表現が出てくる。ガラテヤ 2:20 「生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」。

しかし、わたしたちは、あなたがたがどんな悪をも行なわないように¹¹⁷と、神に祈っています。それは、わたしたちが適格者と思われないからではなく、わたしたちが失活者と思われても、あなたがたが善を行なうためです。8 実際、わたしたちは何事も真理に逆らってはできませんが、真理のためならできます。9 わたしたちは自分が弱くても、あなたがたが強ければ喜びます。わたしたちが祈っているのはこのことであり、あなたがたの回復なのです¹¹⁸。10 そのために、これらのことを、離れた所にいて書いているのですが、それは、そちらに行ったとき、破壊するためではなく、建てるために主がわたしに与えてくださった權威に従って厳しい態度を取らなくて済むようにしたいからです。

11 それでは、兄弟たちよ、お元気で¹¹⁹。元どおり回復しなさい¹²⁰、呼びかけを受け入れなさい¹²¹、同じ思いになって¹²²、平和に暮らしなさい。

¹¹⁷ 「あなたがたがどんな悪をも行なわないように」と訳したのは、μὴ ποιῆσαι ὑμᾶς κακὸν μηδέν。むしろ、ここは思い切って、「あなたがたにどんな悪をも行なわせなください、と」と訳したいところ。

¹¹⁸ 「わたしたちが祈っているのはこのことであり、あなたがたの回復なのです」と訳したのは、τοῦτο καὶ εὐχόμεθα, τὴν ὑμῶν κατάρτισιν。τούτο は取り敢えず直前の ὑμεῖς δὲ δυνατοὶ ἦτε の内容「あなたがたが強いこと」を受けており、それをより具体的に τὴν ὑμῶν κατάρτισιν 「あなたがたの回復を」と言い換えたものであろう。

¹¹⁹ 「それでは、兄弟たちよ、お元気で」と訳したのは、Λοιπόν, ἀδελφοί, χαίρετε。敢えて語源に遡れば「終わりに、兄弟たち、喜びなさい。」(新共同訳)

¹²⁰ 「元どおり回復しなさい」と訳したのは、καταρτίζεσθε。9 節末尾に τὴν ὑμῶν κατάρτισιν 「あなたがたの回復」とある。さらに、1 コリント 1:10 に、ἦτε δὲ κατηρτισμένοι ἐν τῷ αὐτῷ νοῖ καὶ ἐν τῇ αὐτῇ γνώμῃ 「また元どおりに、同じ思い、同じ認識になりなさい」という内容的にわれわれの箇所と関連する表現が出ている。「元どおりに」は、より厳密には「元どおり回復して」。

なお、「完全な者になりなさい」(新共同訳)、「初心に帰りなさい」(聖書協会共同訳)。

¹²¹ 「呼びかけを受け入れなさい」と訳したのは、παρακαλεῖσθε。受動相、命令法、2 人称複数。「わたしの呼びかけを受け入れなさい」。“listen to my appeal,” (NRSV), “take our appeal to heart,” (NEB)。「勧めを受け入れなさい」も可。おそらく可能性は低いと思われるが、別訳は、「励まし合いなさい」(フランシスコ会訳、新共同訳、聖書協会共同訳)、「互いに慰め」(前田訳)、「慰めを受けなさい」(青野訳)。

そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださるでしょう。
12 聖なる口づけをもって互いに挨拶しなさい。すべての聖なる者たちがあなたがたに挨拶をしています。

13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりがあなたがた一同と共にあるように。

¹²² 直訳「同じことを思い」。従来は「思いを一つにし」（新共同訳、聖書協会共同訳）。